

令和5年度第5回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会（概要）

日時 令和6年1月31日（水）13：30～16：10

場所 かながわ県民センター11階 コミカレ講義室2

■ 開会

（かながわ県民活動サポートセンター副所長から本日の予定を説明）

- 委員8名での開催。
- 会議の流れを説明
- 13時30分～14時20分 事前確認
- 14時30分～15時05分 令和6年度ボランティア活動補助金（継続）のプレゼン審査
- 15時15分～16時00分 プレゼン審査に対する選考
- 16時00分～16時10分 令和6年度協働事業負担金協議調整状況の報告
- 16時10分 閉会

（審査会長より開会の宣言）

- 令和5年度第5回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を開会する。
- 率直な意見交換を通じて公平な審査をする必要があり、神奈川県情報公開条例第25条第1項第1号に該当することから非公開とする。
ただし、プレゼンテーション審査は公開とする。

■ 審議事項 令和6年度ボランティア活動補助金（継続）事業の選考

（事務局から以下について説明）

- ボランティア活動補助金事業の応募状況（資料1）
- 来年度のボランティア活動補助金事業に係る予算（資料2）
- 審査委員と利害関係のある団体からの提案なし
- 事務局からプレゼン審査対象団体の提案概要及び幹事会での事前調査結果について報告（資料3、参考資料1）

（委員による審議）

- ボランティア活動補助金（継続）事業への提案事業に係る公開プレゼンテーション審査における確認事項等について検討した。

（プレゼンテーション審査の実施）

- 協働事業負担金の提案事業に対するプレゼンテーション審査を次のとおり行った。なお、傍聴は会場での参加とした。

【学習障害やその周辺の子どものための「デジタル副教材（漢字編）」の開発・普及】

特定非営利活動法人不登校・発達支援ネットワーク Seeds APP（以下、「Seeds APP」という。）によるプレゼンテーションを実施。

<質疑>

(為崎委員)

開発されたデジタル副教材について、活用の効果測定をどのように行うのか、また、使った子どもや教える人などの意見をどのように吸い上げ、どのように次に繋げていくか教えてほしい。

(Seeds APP)

まずLINE登録者を募る。そこには漢字の覚え方だけでなく、実際に漢字を使ってみてどのような効果が上がったのか、漢字が書けるようになったかなども書き込んでもらうことが1つあると思う。

また、団体の教室にも今160名の子どもがいる。その子どもたちにも漢字を覚えてどうだったのかなどを聞いていきたいと考えている。

(為崎委員)

デジタル副教材を使って教える人も効果検証の対象に含まれているか。

(Seeds APP)

子どもに関わるスタッフもたくさんいる。ただ、教えるというよりは、子どもたちと一緒に漢字の覚え方を学習するといった方式で、教え込むというより楽しくやるという形でやっていきたいと思っている。

(為崎委員)

自分たちの教室にも子どもがいるとのことだが、自組織内にとどめずデジタル副教材の活用を広げていくにあたり、外への働きかけをどのようにしていくのか。例えば、漢字のデジタル副教材の開発にあたり、外部の専門機関と連携するとか、あるいはデジタル副教材の活用を進めるための広報をすとか。一般にチラシを配ることが効果的か見えづらいと思うので、必要としている子どもたちに届くように教育機関と連携していくなど、外部への働きかけについて教えてほしい。

(Seeds APP)

DMに関しては教育関係者あてであるが、活動場所が鎌倉市にあるため、まずは鎌倉市の教育委員会へ働きかける。また、開発ができた段階では、良いものであれば教育委員会を通じて各学校に普及していったり、あるいは、2025年に不登校や学びづらさを持った子どもたちの特例校を鎌倉市は作るため、そこへの教材として活用を図ってもらいたいと考えて、働きかけていこうと思っている。

(為崎委員)

問題を抱える子どもということを考えて、広い間口で学校に働きかけても、どれくらい届くかということがあると思う。問題を抱えていなくて使える子もいると思うが、副教材を本当に届けたい子どもたちに届けるためにはどのようなルートで、どのような働きかけを考えているか。

(Seeds APP)

例えばフリースクールだと、不登校の子どもたちは、一因として学びづらさをもった子どもがいると思う。そのため、親の会やフリースクールの関係、そういった機関に案内をして、横のつながりで普及をしていきたいと思う。

(為崎委員)

漢字の開発にあたり、外部の専門機関と連携する必要はないか。ノウハウは団体の中に十分あると考えてよいか。

(Seeds APP)

開発する段階において、いろんな論文を読み、どのように漢字を習得するとよいかなどを発表している専門家にコンタクトは取った。論文を使用する許可をいただく必要があるかと思っていたが、その先生から、許可の必要はなく、覚え方として普及してもらってよいとコメントをいただいた。その段階にとどまっている。

(為崎委員)

令和6年度事業で行う学び方広場について、対象層を広くとあったが、実際に投稿する子どものイメージや層について、どのような子どもが投稿をしてくと想定しているか。

(Seeds APP)

子どもが1人で学んで投稿ということは中々ないと思っている。何らかの支援者、先生や当団体のような教育関係者が子どもと一緒にやりながら、この覚え方を投稿してみようという形で発信されるのが多いと考えている。

(為崎委員)

投稿数を確保していくために、そのような場に働きかけをするという理解でよいか。子ども1人が学んでいる場というより、支援者がいて共に学んでいる場に向けて効果的に投稿などを呼びかけていくと理解してよいか。

(Seeds APP)

呼びかけは多くの方に行い、結果的に、これを活用する時には支援者と子どもが楽しく学ぶというスタイルが多いのではないかと想定している。ただ、学びづらさをもった子どもだけに限らず、多様な学び方という1つの楽しく自由に学べるという考え方で、漢字は今までの学習方法でもできる人も、こういう覚え方があって良いという投稿を寄せてもらえたらな、と思っている。

(為崎委員)

商標登録をされるということだが、この意図を簡潔に教えてほしい。

(Seeds APP)

以前、事務局と相談したときにアドバイスをもらい、今回、登録をすることとした。

(高村委員)

学び方教室でいろいろ作ったものを最終的にはプロトタイプのものとし、無償版で出していくと計画にあるが、この出し方と正規版との違いを説明いただきたい。

(Seeds APP)

内部で微妙であり、プロトタイプは全てが完成したものではないという、試行錯誤を重ねながらやっているという意味で出したが、外部に公表した段階では、もうそれはこの教材を皆で作りあう教材だという位置付けで、プロトタイプを外しても良いかなと考えている。

(高村委員)

ゆくゆくは両方、分けずに上がってきたものがどんどん更新されて公開されるイメージでよろしいか。

(Seeds APP)

そうである。

(高村委員)

これまでの実績報告も確認しているが、11月と1月にPV等で公開されていると思う。視覚教材を見た方の反響や手応えがあれば教えてほしい。

(Seeds APP)

内部で、小学校2年生で漢字が中々書けず、学習自体にも意欲がない親子が来て、試してもらったが、その子が漢字をきれいに書いた。母親も横で見ていてびっくりして喜んでいただいた。完成したときには活用させてほしいと言っていた。

また、実際に担当している小学校5年生の子が、優秀なのだが、漢字は中々覚えられないという子に対して実施した。小学校2年生と3年生で10文字ずつあるが、一気に3学年くらいやってしまい、これだったら学べると言ってもらい、すごく嬉しかった。

(高村委員)

教材のところまで子どもがたどり着ければ、学習者1人で体験することができるという考えか。

(Seeds APP)

そうである。モチベーションでうまくいっていると子ども自身が、感覚が得られれば、どんどん意欲的になれると思う。

(為崎委員)

学び方広場の投稿や活用については、特に学習に問題を抱えている子でなくても、広く活用してもらいたいという思いか。それとも、やはり学習に問題を抱えている子どもに焦点を当てて広めていきたいという考えか。

(Seeds APP)

非常に微妙なところがある。例えば学習障害の子どもの教材とくくってしまうと、目に見えないハードルが生まれて、本当は学びたいはずで、学びが必要なのにたどり着けないという子どもたちがでてきてしまう。変な壁が生まれてしまう。そのため、悩みがあってもなくても楽しく学べるというスタンスで出していくことが良いと考えている。

(為崎委員)

逆に学びに困難を抱えている子が、入りにくくなるという問題はないか。

(Seeds APP)

自由に教材を使えるので、ないと思う。

(為崎委員)

投稿なども、学びの問題を抱えている抱えていないに関わらず、同じようにできるという想定か。

(Seeds APP)

学習障害があろうがなかろうが、同じように投稿してもらい、選定は当団体で覚えやすい、面白いというものを選んでいくが、そこに学習障害の問題の有無はないと思う。

【木質バイオマスを活用した地域内エコシステム構築事業】

特定非営利活動法人 侘（ろく）（以下、「侘」という。）によるプレゼンテーションを実施。

<質疑>

(峯尾委員)

団体全体のことについて確認したい。設立から2年目であり、会員が10名ぐらい増えていて順調だと思うが、NPO 侘の構成、組織化という点は現状どのようなになっているか。

(侘)

ホームページのプロジェクトというページに、古民家を再生する、まちづくり、動物観察など、いくつかのプロジェクトに章立てで紹介している。基金の補助金を受けることで、中心として捉えている事業は、木質バイオマスの薪づくりを軸として、~~効果~~効果を高めていくために、地域を巻き込んでイベントを行ったり、魅力を再発見していくような部門を従えたりしている。

(峯尾委員)

中心になるのは誰で、どのくらいの人数が入るか、というのは特に考えていないか。

(佞)

自然発生的な部門分けの状態のところであり、その次のフェーズの整理はまだついていない状態である。

(峯尾委員)

現在、代表から見て、組織内のネットワークやコミュニケーションも含め、組織の成熟度や動きはどのように感じているか。

(佞)

成熟度としては、それぞれの事業分野に関しては、内実が整ってきているところまできている。ただ、それぞれの事業の水平連携、風通しが良くなっているフェーズはこれからだと思っているので、このために今、広報力アップのためのプログラムを受けている段階である。

(峯尾委員)

エコシステムのイメージは良いと思っている。松田町の特殊性もあるかもしれないが、このような仕組みを県の補助事業で実施している点から考えて、県内の市町村が参考にしながら、横のつながりができたら良いと思うが、団体としての最終的なイメージはどのようなものを持っているか。

(佞)

今、一番親しく、勉強させてもらっている自治体は、地元の松田町で、複数のパイプで繋がっている。これを足柄地域、県西部の平野部を中心とした各市町村と連携していく。これを皮切りにオピニオンリーダーとして存在感を増していく形を取っていきたい。

(峯尾委員)

森林組合との付き合いもあると思うが、市民の認識度、興味関心具合はどのように感じているか。

(佞)

非常に重要なところだと思う。市民の受け取られ方は、主に、悩み解決という形で、伐採や用材の確保、団体から見ると用材の確保になるが、地域の方々からすると、山林の整備をしてもらいたいとのことで、そのニーズも満たされたということでありがたく思っている。このような案件が積み重なってきている。

(尹委員)

事業1について、松田町の「健楽の湯」のホームページで「設備故障により、今は日替わりで入

浴を実施している。」とあるが、この状態が団体に与えている影響は現時点であるか。

()

昨年末から給湯ポンプが1つ故障し、今年になってから、男性と女性が半分ずつ使うという状況で、実際に団体への影響としては、やはり薪の使用量が減っている。松田町福祉課と社協に対して、直してもらおうようお願いしながら、綿密に連絡を取っている状況である。

(委員)

プレゼンの中で、「健楽の湯」で使う分に関して半減させたとあったが、今の状態を踏まえると、さらに下方修正する必要があるのではないか。

()

すぐに直すと言ってくれている。松田町で、3月初めから桜まつりがあり、それまでに直すと言ってくれている。また、冬は薪の使用量も多くなるため、極端に使用量が落ちているという状況ではない。

(委員)

年度内には間違いなく直すという認識で良いか。年度内に問題は解決されて、団体が計画している供給量等が担保されると考えているか。

()

今、営業時間が11時から15時30分までである。4月から10時から17時までにするというところで、かなり上がってくると思う。また、ポンプが直れば供給量が上がる。ただ、それで120 m³達成できるのかは疑問があり、今回の目標は半減させてもらい、60 m³に修正した。

(委員)

量や金額等変わらずに買ってもらえるということは変わらないという認識でよいか。

()

金額については、灯油の値段が上がってきていることもあり、団体としては1割ぐらい上げてほしいという要望をだした。審査が必要であるが、叶えられる可能性は出てきている。

(委員)

森林組合との契約はどのような形になっているか。この量をこの値段で引き取るなど、決まった形で進めているのか。

()

森林組合とは、その都度お願いする形である。森林組合も経費がかかるようで、団体としての希

望は 60 m²以下にしてほしいが、それができない可能性もあるため、その場合には民間の林業企業と話して、もう少し下げられるということもあるので、そちらにアプローチするつもりでいる。

(尹委員)

事業2について、焚き木の供給事業に関して、松田町以外の部分にも販路を広げていると思うが、それに関しては、どなたがどのようなルートで、どのような形で交渉しているのか教えてほしい。

(佯)

主に会員の口コミ繋がりで営業が拡大している状態である。団体の薪の評価や評判が、次のお客さんを連れてきてくれる流れで、今増えていっている。

(委員による審議)

○ ボランティア活動補助金事業(継続)の提案事業に係る公開プレゼンテーション審査の結果を踏まえて審議を行い、事業を選考した。

※ 選考結果は後日団体に通知。

■ 報告事項 令和6年度協働事業負担金の調整状況

○ 令和6年度協働事業負担金の調整状況について、事務局から報告。(資料4)

■ 閉会

(審査会長より閉会の宣言)

○ 令和5年度第5回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を閉会する。

(以上)